

# 下北半島の集落における地理学的研究 集落の人口規模とその分布

平 田 昇 一

## I. 研究の目的

地表面の顕著な構成要素であり、地表形態の中核的な形象である集落は、地理学の重要な研究分野であり、立地・形態・機能など様々な分野から多くの研究がなされている。これは、集落が地域の自然・歴史・文化・産業等と深くかかわりあい、相互に影響しあっているからであり、その意味で「集落は地域の性格を一元化する」と言うことができる。

下北半島における集落研究は、個々の集落に関して、社会学的分野からの研究が行われているほか、九学会による調査報告や下北半島総合開発計画に伴う調査報告などがあるだけで、今日まで、地理学的分野から、半島全域を対象とした研究はなされていない。

本研究は、半島に分布するすべての集落を対象とし、集落の人口規模とその分布等から、下北半島の地域性を明らかにすることを目的とする。

## II. 研究地域の概観

下北半島は、本州最北端の半島で、幅10kmの細長い頸部により、本州と陸つづきになっている他は、すべて海に囲まれている。

半島の地形は、西部に下北山地・恐山火山の急峻な山地が海岸付近まで迫り、海蝕崖の発

達もみられる。半島中央は、田名部低地と呼ばれ、田名部川の沖積平野や低丘陵の広がる地域である。半島東部は丘陵地帯が広がり、北部と南部に山地がみられる。

半島中央部以東の北岸、むつ湾岸（南岸）、東岸には、砂丘や砂浜海岸が発達し、西部では対照的に、岩石海岸が発達している。

研究範囲は、下北郡とむつ市をあわせた地域で、1市3町4村からなる。人口密度は、県平均152人/㎢の半数に満たない68人/㎢にすぎず、人口過疎地域とすることができる。

### Ⅲ．規模別集落数とその分布

#### 1) 人口規模

下北半島の集落を、人口規模別に表わしたのが第1表である。1,000人以上の大集落が14集落（11％）にすぎず、他方300人未満の集落は、78集落（61％）と多い。また、200人未満の極小集落は、60集落（47％）で全体の約半数を占める。

第1表 人口規模別集落数 (S 50 国調)

項目 人口規模	地域別集落集							合計		立地別集落数	
	西岸	北岸	南岸	東岸	西部	中部	東部	総数	%	沿岸	内陸
10,000～	0	0	1	0	0	1	0	2	1.6	1	1
5,000～9,999	1	1	0	0	0	0	0	2	1.6	2	0
2,000～4,999	1	0	1	0	0	0	0	2	1.6	2	0
1,000～1,999	1	4	1	2	0	0	0	8	6.3	8	0
500～999	0	5	4	3	0	2	0	14	11.0	12	2
300～499	4	4	4	0	1	4	4	21	16.5	12	9
200～299	2	3	4	0	5	0	4	18	14.2	8	10
100～199	1	3	3	0	9	8	5	30	23.6	8	22
～99	0	1	3	0	7	13	7	30	23.6	3	27
合計	10	21	21	5	22	28	20	127	100.0	56	71

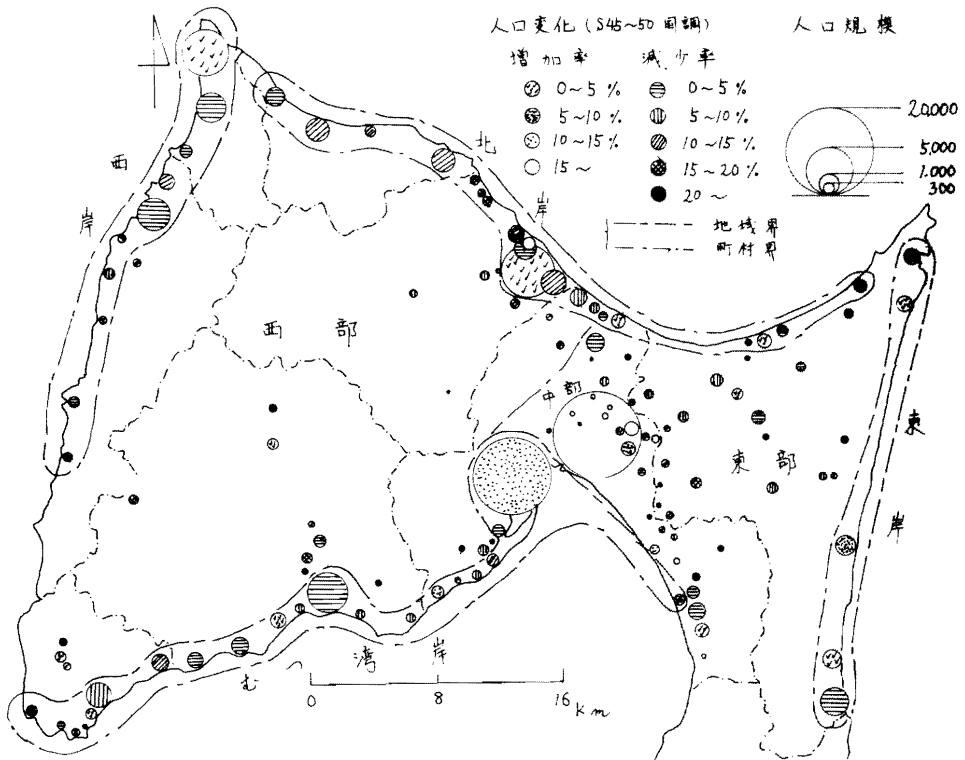
また、沿岸に立地する集落と内陸に立地する集落の人口規模を比較すると、集落数では内陸立地の集落が多いが、規模では、300人以上の比較的大きな集落は、大部分が沿岸に立地し、300人未満の集落は内陸に立地するという対照的な傾向がみられる。

#### 2) 集落の分布

半島中央に、田名部・大湊の大集落が位置しているが、その他の大集落は、半島周辺の沿岸とりわけ半島の西側に分布している。

また、半島西側では沿岸に、東側では内陸に集落が卓越し、田名部周辺には小集落の集中がみられる。（第1図）

第1図 集落分布図 (S50年国調)



### 3) 人口変化

昭和45年から50年にかけて、集落規模に関係なく、72%にあたる91集落で人口減少がみられる。減少率は、概して小集落で高く、大集落で低いという傾向がある。また、20%以上の減少を示す集落は、内陸立地の集落で圧倒的に多い。

一方、増加集落数は、36集落(28%)あるが、昭和40年から50年の期間では、13集落にすぎず、恒常的に増加を示す集落はごく少数である。(第2表)

以上、集落の人口規模、分布、人口変化について概観したが、次にそれらの原因を、半島の地形、集落の形成時期、産業(農・漁業)を中心に地区別に考察する。

なお、集落の形成時期は、原始謄筆風土年表(1797年)等の古文書と、昭和20年発行の地形図を参考にした。また、農業は、農家率と農家一戸当りの耕地面積を、漁業は、漁業組合員率を各集落ごとに求め、それらを指標にして考察を行った。

第2表 人口増減集落数

(S45～50年 国調)

項目 割合%	増加集落数					減少集落数					
	総数	0～5	5～10	10～15	15～	総数	0～5	5～10	10～15	15～20	20～
10,000～	2		1		1	0					
5,000～9,999	2	2				0					
2,000～4,999	0					2	2				
1,000～1,999	1		1			7	3	1	3		
500～999	6(3)	4(1)	1(1)		1(1)	8	5	1	2		
300～499	7(3)	4(1)	1(1)	2(1)		14	7	4	2		1
200～299	4(0)	3	1			14	2	5	2	5	
100～199	5(0)	3	1	1		25	3	7	5	7	3
～99	9(2)	1	2	1	5(2)	21		4	6		11
合計	36(3)	17(4)	7(3)	4(1)	8(5)	91	22	22	20	12	15

( ) の数は、S40～50年の期間で増加を示す集落数

## IV. 地域別考察

沿岸地域を西岸、北岸、むつ湾岸、東岸の4地域に、内陸地域を西部、中部、東部の3地域の計7地域に分け考察を行った。

## 1) 沿岸地域

## a) 西岸

背後に急峻な下北山地が迫り平地は非常に乏しい。特に南部では、地形的制約が著しく小集落が分布する。一方、北部は比較的平地に恵まれ、1,000人以上の大集落が3集落分布する。これらの集落は、いずれも岩石海岸のつくる良湾や良港を核として立地している。

農家率、漁業組合員率ともに高率で、半農半漁集落が卓越するように見えるが、一戸当りの耕地面積が非常に小さいことから、漁業主体の集落が分布する地域と言えよう。

## b) 北岸

大畑川以西では、平地は極小で岩石海岸が発達するが、対照的に以東では、緩やかな地形で砂浜海岸が発達している。

約半数の10集落が、500人以上の集落であり、他地域に比べ集落の人口規模が大きい。また、北岸中央には集落が密集し、西部や東部では散在的である。

農・漁業についてみると、約3分の2の集落は、農家率が50%以下と低く、一戸当りの耕地面積も全般的に小さい。一方、漁業組合員率は、ほとんどの集落で高く、なかでも、西部の岩石海岸に立地する集落は著しく高い。

本地域も漁業主体の集落が分布する地域であるが、その依存の程度は、西部に立地する集落で高い。

#### c) むつ湾岸

脇野沢村以西を除き、沿岸には砂丘や砂浜海岸が発達している。

1,000人以上の大集落は3集落だけであり、半数の10集落が300人未満の小集落である。これら、小集落は西部の平地の乏しい地域と、東部の砂浜海岸に集中している。

農家率50%以上の集落がほとんどであるが、一戸当りの耕地面積では、県平均を上まわる集落は存在せず、農業への依存は小さいと思われる。組合員は、西端の岩石海岸に立地する集落を除くと、ほとんどの集落で極端に低く、海に背を向けている集落がかなり多い。砂浜海岸で良港がないことが原因であろうか。

#### d) 東 岸

北端と南端は、山地が海岸に迫り岩石海岸が発達するが、それらに挟まれた地域には、砂丘や砂浜海岸が発達している。

1,000人以上の大集落が2集落、500人以上の中規模集落が3集落で、小集落の立地はみられない。

農家率は全集落を通じ低く、一戸当りの耕地面積も極小で、農業への依存は非常に小さい。組合員率は、極めて高い割合を示し、北岸、西岸と同様、漁業主体の集落が分布する地域である。

### 2) 内陸地域

#### e) 西 部

集落は、急峻な山地を刻む河川の河岸段丘や谷底に立地している。地形的制約が大きいため、中規模以上の集落は存在せず、極小集落が多い。

内陸立地だけに農家率は高いが、一戸当りの耕地面積は、4集落で県平均を上まわる以外は零細である。

#### f) 中 部

28集落中21集落が200人未満の極小集落であり、田名部の東部や南部に集中している。いずれも、戦前・戦後、開拓により形成された新しい集落であり、丘陵や山麓斜面に立地している。

農家率は、開拓集落を中心に高い割合を示し、一戸当りの耕地面積も、大部分の集落で県平均を上まわっている。本地域は、農業主体の集落が卓越する地域と言えよう。

#### g) 東 部

西側には、戦後の新しい開拓集落が立地し、すべて 200 人未満の極小集落である。東側には、河岸段丘や谷底に古い集落が分布するが、500 人以上の集落はみられない。

農家率は、開拓集落を中心に高い割合を示し、一戸当りの耕地面積も、ほとんどの集落で県平均を上まわっている。この地域も中部と同様、農業主体の集落が卓越する地域と言えよう。なお、この地域北部には、組合員率の高い集落が分布するが、これらは、納屋集落により漁業を営む集落である。

#### V. まとめ

下北半島における集落の人口規模と分布は、半島各地域により大きく異なり、特に沿岸と内陸に立地する集落は、人口規模において対照的な傾向を示している。つまり、大集落は沿岸に立地し、内陸には小集落が立地する傾向がみられた。

大集落が沿岸に立地する理由を考えると、(1)良湾や良港が集落の発展に寄与したこと。(2)沿岸には、河川のつくる平地が存在すること。(3)漁業主体の集落が立地し、集村が形成されやすいこと。などがあげられよう。

しかし、沿岸でも、砂浜海岸や砂丘地域では、上の条件が満たされないため、大集落は立地しない。

一方、内陸では、平地が極小で隔絶性が強いこと、農業が主産業であること、特に開拓集落では、酪農や畑作が中心で散村形態を示すこと、などの理由により、小集落が卓越するものと思われる。

以上、下北半島に立地する集落の人口規模と分布は、地形、産業（農・漁業）、形成時期により一特に沿岸集落と内陸集落を比較した場合一明らかに影響を受けるが、それらと個々の集落の相関を論じることはできない。人口規模やその分布は、実に多くの要因が、幾重にも影響しあって、決定されるものだからであろう。

本論文は、半島集落の人口規模と分布に関する一考察にすぎず、半島の地域性に触れられたかどうか疑問であるが、今後の研究の一指針となったように思う。

本論文を作成するにあたり、多大な御助言をいただいた、横山 弘、水野 裕、両先生に深く感謝致します。

#### <参 考 文 献>

笹澤魯洋（1980） 下北半島町村誌 名著出版

下北の歴史と文化を語る会（1978）：下北半島の歴史と民俗 伝統と現代社

竹内利美編（1968）：下北の村落社会 未来社

鳴海健太郎編（1978）：下北近・現代史略年表 北方文化研究会

矢嶋仁吉（1958）：集落調査法 古今書院